

## 当院における SMBG 指導の取り組み

◎松本 沙彩<sup>1)</sup>、市川 佐知子<sup>1)</sup>、小楠 高史<sup>1)</sup>、高林 保行<sup>1)</sup>  
JA 静岡県厚生連 遠州病院<sup>1)</sup>

【はじめに】糖尿病はインスリンの作用不足による慢性の高血糖を主訴とする疾患で、遺伝的な因子や環境因子が作用して発症する。糖尿病の治療は食事療法、運動療法、薬物療法が中心とされ、医師や看護師だけでなく、管理栄養士や薬剤師、理学療法士、臨床検査技師など多職種で携わるチーム医療のひとつである。血糖の変動や推移が治療効果の指標となるため、必要に応じて血糖自己測定 (self monitoring blood glucose:SMBG)が導入される。今回、臨床検査技師として、担当している SMBG 指導の業務内容について紹介する。

【臨床検査科の現状】当院臨床検査科の糖尿病療養指導への関わりには、糖尿病教室での講義、血糖自己測定器の管理や SMBG 指導、検査データの管理、自律神経機能検査 (CVR-R)、頸動脈エコー、足関節/上腕血圧比検査(ABI)等がある。糖尿病教室の講義では、血糖値や HbA1c 等の検査を理解し、検査データに興味を持ってもらうことを目的としている。また、生理検査の内容を説明することで、検査への不安を取り除く事ができ検査への協力を得られている。

【SMBG 指導】当院では、3社の機器が患者に合わせて選択されている。機器の新規導入では、始めに血糖測定の必要性を確認してから指導を開始する。手技の説明後患者自身が一人で測定が出来ることを確認し、理解力や手技に不安が残る場合、レポートに記載し医師や看護師等、他職種と情報を共有している。更に、再指導や患者からの問い合わせにも随時対応している。その対応例として、機器の誤った操作や自己流の手技等の問題点をみつけ、その患者に合わせた指導をしている。

【まとめ】糖尿病療養チームのスタッフとして、SMBG 指導は重要な役割である。臨床検査技師として、直接患者に接する機会を持つことで患者からの声を傾聴することができ、SMBG への意欲向上や検査に対する理解が得られる。今後も SMBG 指導を通して患者に寄り添い、糖尿病療養指導における関わりを増やしていきたい。

連絡先 053-453-1111 内線(7049)